

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input type="radio"/> その人らしさを大切にする理念を掲げている。理念に基づくケアについての話し合いも毎月の勉強会中で行っている。	<input type="radio"/> 各ユニット単位に置いて目標を掲げ、達成に向けてのケアを実践している。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input type="radio"/> 毎月の勉強会等に理念を復唱したり、日々の業務においても言葉だけでない理念の共有を念頭においてケアにあたっている。	<input type="radio"/> 職員一人ひとりが問題、目標を自由に出し合う中で、理念が問題解決の指針となるよう、さらに理解を深めていきたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<input type="radio"/> ご家族には面会時や家族会のときに伝え、地域には運営推進会議、イベント時に理解していただくよう取り組んでいる。	<input type="radio"/> 節分、ひな祭り、花見、母の日等、その他にもたくさんの催しがあるが、行事そのものではなく、皆で支えあいながら参加することが大切であることを、折に触れて発信していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<input type="radio"/> 外出した際は極力交流を図り、「施設」というイメージの払拭に努めたきた事の効果が現れている。ときには庭にいるところに声を掛けてくださる方も近隣にはおられる。	<input type="radio"/> 交流を深める為、できる範囲内での地域への貢献の為「見守りパトロール」を実施しており、実施中は小学生、地域住民とのやりとりも多く見られている。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="radio"/> 運営推進会議等を通じて地域の催しの情報を提供してもらっている。参加可能なものであれば職員とともに参加させていただいている。	<input type="radio"/> 参加させてもらうだけでなく、地域の方が参加可能な活動を事業所側からも多数提示していきたい(認知症サポーター養成講座、季節行事等)。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所の地域への貢献・ご利用者様の社会交流という二つの視点から、散歩の傍ら「見守りパトロール」を実施している。	○	今年度、認知症サポーター養成講座を実施することで、事業所の力を活かした地域貢献に結び付けていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ一人ひとりが自己評価に取り組むことにより気づきが生まれ、課題が明らかになり、目指す方向が確認していく事が出来た	○	職員全員で課題や気づきの部分を話し合い、改善計画を立てて実施し、サービスの質向上を目指していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており、グループホームへの理解が深まり、利用者家族、区長、民生委員からも意見が出て、サービスの質の向上に努めている。	○	運営推進会議中のやり取りがきっかけとなり、今年度から、門川町社会福祉協議会と協働で認知症サポーター養成講座を実施していく予定である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度の問題など、常に連携を図り、サービスの質向上に取り組んでいる。	○	今年度は運営推進会議の出席が悪かったように思われ、今後開催曜日等検討していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々の必要性を関係者と話し合いながら、必要な方には活用していただいている。	○	今後、全職員で学ぶ機会をもうけ、ご家族には家族会のときに情報提供を行なっていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者への虐待は身体的虐待だけでなく、どういった行為が虐待となるのか、日頃のケアの中にその可能性が潜んでいないかを毎月の勉強会の中で検証している。	○	単に言葉だけの知識でなく、自分の身に置き換えることで虐待行為の防止に繋がるよう、今後も勉強会や全体会議等で高齢者虐待防止法に関する理解を深めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に十分な説明を行い理解・納得を図り不安がないようにしている。退去後についても訪問したり、電話連絡を行なうなどし、支援している。	○	自室での転倒のリスク等についても今後スコアシートを作成し、ご家族との意思統一を図っていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活相談(日中の個別対応の中で実施)を行うほかに玄関入り口には意見箱を設置しており、利用法を説明している。運営推進会議にも参加して頂き、要望や意見を受け止め話し合い、運営の改善に努めている。	○	今後は利用者様やご家族様からの要望で改善した、あるいは変更した点については何らかの形で文面化し保存していきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全体報告としては運営推進会議で生活状況報告をするほか、ホーム便りを3ヶ月に1回発行し、日常の様子や近況を伝えている。個別での報告は家族面会時や電話などで、その都度近況報告等行なっている。	○	職員の異動や、慰問があった際などについても、ご家族に定期的に報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に運営推進会議を開催し意見を交換しながら、苦情や意見、要望を必ず受け止め、運営に反映している。また玄関入り口には意見箱を設置している。	○	今後は利用者様やご家族様からの要望で改善した、あるいは変更した点については何らかの形で文面化し保存していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や毎月の勉強会において、自由な意見を出し合い、業務に反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	各催しの際にはなるべく職員が全員参加できるよう調整したり、利用者様の状況の変化等に応じて、柔軟な対応ができるよう話し合いながら、勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力職員の異動や離職者を抑える努力はしているが、人材が定着しないのが現状であり、今後の課題である。	○	できるだけ馴染みの関係の中で支援が受けられるよう努力しているが、やむをえず離職等が発生した場合には、引継ぎなどを慎重に行い、利用者様・ご家族が安心した支援が受けられるよう配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	新人職員の研修計画については職階に応じてはっきりとしたものを(マニュアル作成等含めて)構築していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	今後他施設の見学を積極的に行い、互いにサービスの質向上に繋がるような情報交換をしていきたい。また、利用者様の相互訪問についても機会があれば前向きに検討していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	心理面においてだけでなく、環境面で職員に負担をかけている部分がないか、検証していきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意見を尊重し、他のサービス機関も検討しながら、必要なサービスが実施できるよう努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用までの間に、十分な話し合いを設け、ご本人、ご家族の意向を受け止め、安心して過せる環境作りに努めている。	○	部屋担当制をとっているため、初期は重点的に担当職員が対応するなどして利用者様がスムーズに環境に馴染めるよう取り組んでいきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆったりとした時間の中で、調理や園芸など日常の活動を通して、一緒になって活動しながら、多くの事を学ばせていただき関係を築いている。	○	地域密着型施設の特性を活かして「聞き書き町史」等作成してみたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	各催しにおいては、ご家族に積極的に参加していただき楽しまれている。また、一緒に食事をしたりなどの機会を設けている。	○	面会時にはケアの提供に役立つ情報を聞かせていただき、入居された後も共に本人を支えていることを実感していただけたらと思う。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時や各行事への参加を通して、話をしたりしながら、良い関係が築いていけるよう支援している。	○	認知症の周辺症状によって家族間の関係に変化が生じたりしないよう、ご家族対象の認知症についての講座を行っていききたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域の方に外出(ふるさと訪問)など実施している。	○	今までもふるさと訪問など実施しているが、なかなか定期的には実現できない状況であるため、今後家族と密に連絡をとりながら、定期的に外出等できるよう支援していききたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者様同士が共同で作業したり、レクリエーションを行ったりと、いい雰囲気の中で関係が築けるよう努めている。	○	一人ひとりに個別に寄り添いながら、その方の意思を尊重したケアを行なっていききたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了=入院、という状況が施設の性質上多いため、利用が終了しても、ご家族の相談に応じ、訪問したり、電話連絡を行なうなどの支援を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを大切に、今、何を不安に感じているかなど自分自身に置き換えて接するように努め、本人様のペースで安心した生活が送れるよう努めている。	○	今後もよりよい環境の中で、安心した生活が送れるように、一人ひとりの希望や意向を反映しながら支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族等から今までの生活歴や意向を情報収集し、把握するよう努めている。	○	まだまだ情報収集が不十分な部分もあるため、今後も継続し把握するよう努めていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様個々の状況を把握し、その人らしい暮らしを継続していけるよう努めている。		今後全員が共通の認識を持てるよう、包括的自立支援プログラムの書式を活用していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人様、ご家族の意向を把握し、毎月のカンファレンスで職員の気付きや意見を反映しながら計画書を作成している。	○	今後もご本人、ご家族と密に話し合いながら、充実した介護計画が作成できるよう努めていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	小さなことでも変化があった場合はカンファレンスを行い、本人様、ご家族と話し合ったうえで、計画の見直し・作成をしている。	○	常に課題分析し、話し合いの場を持ちながら、現状に即した介護計画のもとでケアできるようしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者様の言動や気づき等を詳細に記録し、情報の共有化、計画書、現場のケアに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出や外泊の機会を要望に応じて設けたり、デイサービスとの交流を図ったりと柔軟な支援が出来るよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	見守りパトロールの実施や防火訓練、近隣の小学校やボランティアの方を招いたりと交流などをさせていただいている。	○	他の地域資源との協働を図りながら、各イベントの充実を図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて他のサービス事業者との連携を図りながら、支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターとの情報交換を密に行い、連携を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族の意向を尊重して主治医を決めており、必要に応じて、かかりつけ医と連絡相談を密に行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	看護職だけでなく、介護職員も日頃の健康管理に気を配り、看護職員と連携しながら、支援していけるよう意識づけしていきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	お見舞いに行ったりし、病院関係者との情報交換を行ないながら、利用者様が安心して静養できるよう努めていきたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	ご家族やご本人様と、早い段階から繰り返し話し合いをしていき、方針の確認、共有の徹底化をしていきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけや対応に関しては、利用者様の羞恥心やプライバシーを損ねないよう、全職員で気をつけながら対応している。	○ 今後も全職員でプライバシーの確保の徹底に努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の思いを大切にし、意思を尊重しながら、自己決定できるよう日々働きかけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思を聴きながら、一人ひとりになるべく自分のペースで自由に生活できるよう支援している。	○ 本人様の思いを大切にし、意思を尊重しながら、毎日を充実した生活が送れる様働きかけていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に美容師の方に来てもらい散髪しているが、本人様の希望に応じて、美容院への通院も行なっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者様が一緒になって会話しながら食事をとっている。準備や後片付けも一緒に行なっている。	○ 季節の旬な食材等を取り入れ、メニューの充実化を図っていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康状態等にあわせて、本人様が好む物を提供しよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表などの活用にて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来る限りオムツや失敗がなくなるよう、昼夜声かけ、誘導を行なっている。	○	オムツ使用や失敗がなくなるよう、羞恥心に配慮しながら、今後も支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の際は、時間にとらわれず、ゆっくり入ることが出来るよう支援しているが、現在日中だけの入浴である。	○	日中だけでなく、夕方から夜間の入浴の検討。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の状況に合わせて、ゆっくり休息がとれるよう支援している。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴等から一人ひとりのしたい事や楽しみごとを見出し、調理や園芸など自分の仕事や役割をもって生活できるよう支援している。	○	その方の活動が特別なものでなく、日常的な役割のひとつとなるまで継続して支援を重ねていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様やご家族の希望に応じて、金銭管理の出来る方にはお金を所持し買い物等で使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	定期的にまた希望に応じて、ホーム周辺の散歩や、見守りパトロールにスタッフ付き添いにて出かけたり、また近くのスーパーにて買い物にも出かけている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じて、花見に出かけたりや、病院受診の際などにそのまま近くをドライブしたりなど、外出し気分転換できる機会をつくっている。	○	本人様やご家族と相談しながら、外出する機会を多くもてるよう計画していきたい。また外出行事の際のご家族の積極的な参加も促進していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があるときには、手紙や電話をできるようにしている。また定期的に「なごみ便り」を発行している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、知人など、馴染みの方が気軽に来やすい雰囲気作りを心がけている。時間制限もなく、都合の良い時間にいつでも来ていただけるような配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが、拘束禁止を周知徹底しており、行動を制限したりしないよう、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	定期的に勉強会等を開き、スタッフ一人ひとりが正しく理解し取り組んでいくよう、徹底していきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	なるべく施錠しなくていいよう取り組んではいるが、帰宅欲求や不穏等、また徘徊される方もいるため、安全面を考慮し施錠することがある。	○	スタッフ全員で話し合い、安全面での配慮を十分したうえで、完全開放へと向けて取り組んでいきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人様のプライバシーに配慮しながら、歩行が不安定な方は、転倒等がないようさりげなく近くで見守ったり、さりげなく全員の所在や様子を把握するよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせて、制限することのないように、物品の管理及び危険を防ぐ取り組みを行なっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書及びヒヤリ・ハットを作成し、なぜおこったのか等を皆で話し合い取り組み、また毎月の勉強会などで事故防止の研修などに取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎月の勉強会などで看護師が中心となり、応急手当や初期対応の研修や訓練を繰り返している。	○	全ての職員が、臨機応変な判断も含めて、対応していけるよう取り組みを強化していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練、通報訓練等、昼夜を想定して実施している。また地域の消防団の協力も得ている。	○	地域の人々や近隣住民の協力が得られるよう働きかけていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	その都度、起こり得るリスクについて、ご家族等に説明・話し合いを行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、異常が認められた場合には速やかに看護師が主治医及び医療機関に報告し、指示をいただき対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心となり、薬剤情報を確認し、医師の指示通りに内服できるよう努めている。	○	職員全員が、薬剤情報について、把握、理解できるよう努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況を毎日確認しており、水分補給や運動、食事の工夫など行なっている。また、必要に応じて緩下剤の調節を行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後に口腔ケアを行なっている。毎夕食後には義歯洗浄を行なっている。	○	将来的には利用者様自らが毎食後に洗面所に立ち寄ることが習慣となるよう意識付けを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立を作っており、毎食時、水分・食事量の摂取状況を確認している。また、毎月2回体重測定を行なっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手指の消毒、嗽の徹底、毎日ホール手すり等の消毒を行なっている。利用者様・スタッフはほぼ全員インフルエンザ予防接種を受けている。	○	勉強会等にて取り組みながら、感染予防を徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器・器具類など毎日消毒している。食材は業者が新鮮なものを搬入している。	○	常に清潔を保つように努め、食中毒予防への意識を高めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の草花などを玄関周りや建物周辺に植えており、安心して出入りできるよう、家庭的で親しみやすい環境作りを心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを心がけており、季節の草花を生けたりしながら、心地よくゆったり過ごせるように工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フローアだけでなく和室や居室を活用しながら、一人ひとりが思い思いに過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや、好みのもを自由に持ち込んでいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、室温調整は適宜行い、居心地のよい環境提供に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全室バリアフリーになっている。また一人ひとりの身体機能を活かせるように、手すりの設置など工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや居室の場所を文字や写真などを使い分かりやすくしたりと工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	気候の良い時期には、毎日のようにホーム周辺にて散歩や見守りパトロールに出かけたり、また椅子やテーブルなどを設置し、庭で食事やおやつを食べたりと、楽しんで活動できるよう活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの思いを大切にしながら、その人らしくいきいきと和やかに安心した生活が送れるように日々取り組んでいます。また今年度より、認知症サポーター養成講座を実施していくことで、地域の方々と交流を深めながら、認知症ケアに対して、事業所だけでなくご家族や地域の方々とも協働し皆で支えあう関係を築いていけるよう取り組んでいきたいと思っております。